



発行所
一般財団法人
広島県動員学徒等犠牲者の会
事務局
広島市南区比治山本町12-2
広島県社会福祉会館内
〒732-0816 電話 (082) 252-0316
印刷所 **Taisei**

デジタルブック
“衝突の証言”
<http://www.douingakuto.com/>

会の設立60周年に当たって

一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会の前進である広島県動員学徒犠牲者の会が結成されたのは、戦後11年6月を経過した昭和32年2月17日のことで、来年の2月をもって設立60周年を迎えます。

設立に向けて精力的にご尽力いただいた先人たちから、その当時のことを聞くことがますます困難になる中、設立60周年のこの機会に、どのような目的、目標をもって、会を立ち上げたのか、設立宣言などを掲載します。

広島県動員学徒等犠牲者の会の発足の経緯

(動員学徒誌「続編(昭和47・75発行)」から)

本会は、昭和32年2月17日広島県庁正庁において開催、知事代理・石島民生労働部長を始め県議会議員、教育委員、熊本・山口両学徒犠牲者の会より参列あり又会員として広島市の外、安芸・佐伯・安佐郡から約170名出席あり、熱烈な激励と火の出るような会員の叫びの下に結成

大会を終了した。

続いて会員の獲得、会費の徴収、運営資金の募集に入り、更に遺族・障害者の処遇問題を国会、県会に請願し広島市及び広島県に向かっては補助金の交付申請手続をとり本会の活動を軌道に乗せた。

当日の宣言・決議は次のとおりである。

宣 言

戦争犠牲者のうち、軍人軍属については、恩給法及び戦傷病者戦没者遺族等援護法が逐次改善されつつあるが、動員学徒犠牲者に対する国家補償は戦後十有余年経過の現在、未だ殆ど何等処遇されていない。

国家総動員の要請に招集されて傷痍疾病に罹り、身体を自由を失い、或いは顔面傷痕を被った幾多の兄弟が結婚に、就職に、重大な障害を生じ、あたら青春を犠牲にして塗炭の苦境に呻吟する現状は黙視すること出来ない。

ここにおいて我々犠牲者は、二百万県民各位を慈父母と仰ぎ、これが御庇護の下同憂の士、大同団結蹶起して国家補償の実現を期す。
右宣言する。

昭和32年2月17日

広島県動員学徒犠牲者の会

決 議

動員学徒犠牲者に対しては国家補償として次の事項が速やかに措置されることを要望する。

- 1、死亡者には軍人と同様に
- (1)遺族年金の支給
- (2)弔慰金5万円の支給
- 2、傷害者には
- (1)障害年金一時金の支給
- (2)療養の完全給付
- (3)更生医療、補装具の給付
- (4)国立療養所への収容
- (5)職業補導施設の実施と完全就労の斡旋

右決議する。

昭和32年2月17日
広島県動員学徒犠牲者の会



昭和32年2月、本会の発会式風景

お世話になる方々

広島県

健康福祉局長

笠松 淳也

社会援護課長

日下 仁彦

援護恩給グループ

主 幹

多田 明子

事業調整員

山口 博幸

事業調整員

船石 幸恵

事業調整員

川尻 博満

主 任

村川 ちどり

援護恩給グループ

電話 082-513-3036

広島市

健康福祉局長

川添 泰宏

健康福祉局次長

高宮 裕介

健康福祉局保険年金課長

荒木 清希

健康福祉局保険年金課

枝次 明弘

福祉医療担当課長

前田 博幸

健康福祉局保険年金課主事

福永 玲子

健康福祉局原爆被害対策部調査課

山本 勝彦

主事(追悼式補助金担当)

電話 082-504-2159

電話 082-504-2191

電話 082-504-2191

ごあいさつ



広島市健康福祉局保険年金課
福祉医療担当課長

枝次明弘

広島県動員学徒等犠牲者の会の皆様方におかれましては、日頃から本市行政の推進に格別の御理解と御協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

この度、健康福祉局保険年金課福祉医療担当課長に就任し、援護行政に携わることとなりました。よろしくお願い申し上げます。

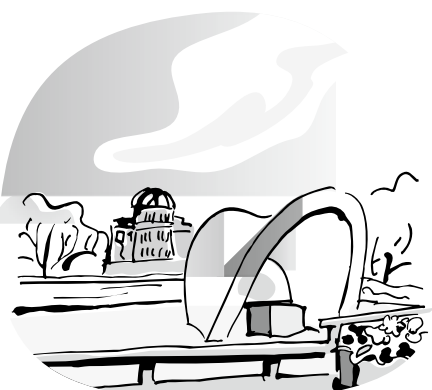
先の大戦において負傷され、あるいは最愛の御家族を亡くされた会員の皆様方におかれては、長い間、肉体的精神的苦痛に耐えてこられたものと拝察申し上げます。

戦後七〇年以上が経過し戦争の記憶が風化していく中、今日のわが国の平和と繁栄の礎には、数多くの動員学徒や女子挺身隊員の方々の尊い犠牲があることを、私たちは決して

忘れてはなりません。

今年は、現職の米国大統領の初めての被爆地広島訪問もあり、核兵器廃絶と世界恒久平和を目指す本市の取り組みに世界の注目が集まっています。こうした中、本市は、平和首長会議を構成する七千を超える加盟都市とともに、国連や志を同じくするNGOなどと連携して、二〇二〇年までの核兵器廃絶をめざし、核兵器禁止条約の早期実現に全力で取り組むとともに、戦後の復興・成長を支えてこられた皆様がいきいきと、住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう一層努力してまいります。

終わりに、貴会の益々の御発展と、皆様の御健勝・御多幸を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



第60回原爆死没者追悼式のご案内

巡り来る8月6日が近付いて参りました。午前9時から動員学徒慰霊塔の前において、会として第60回目の原爆死没者追悼式を執り行います。

お暑い時期ですが、お体にお気をつけくださいますようお願いください。

平成27年度
事業報告書

1 広報活動の実施

(1)原爆追悼式の案内

会報「ともしび」の送付に合わせ追悼式の案内を送った。

(2)会報「ともしび」の印刷・配布

・平成27年6月30日付け会報第122号

・平成27年11月30日付け会報第123号

(3)ホームページの運用

ア「慟哭の証言」の英訳(1件)の追加

イ会報「ともしび」120号から123号の掲載

ウアクセス数(28.3.31):3342件

(4)「慟哭の証言」を関係機関等に配布
慰霊塔に千羽鶴を奉納していただいた学校等へ冊子「慟哭の証言」を送付した。送付数:14件

(5)慰霊塔説明文の設置
ア慰霊塔の説明文を常時設置し、参拝者の理解の一助にした。(年間5万枚印刷)

イ新たな慰霊塔説明文を作成した。

(6)動員学徒等の業績の顕彰とその精神の啓発

慰霊塔の清掃日時等を利用して、随時、参拝者に対して原爆、空襲、動員学徒の顕彰等について説明した。

2 第59回原爆死没者追悼式の挙

日時 平成27年8月6日(木)
午前9時から

3 場所 動員学徒慰霊塔前広場
英霊供養

月日	参加者数	供養会 (西向き)	月日	参加者数	供養会 (西向き)
4月6日	17人	○	4月28日	12人	
5月7日	13人		5月20日	21人	○
6月5日	16人	○	6月19日	13人	
7月6日	18人	○	7月21日	15人	
8月5日	19人	○	8月21日	13人	
9月7日	21人	○	9月18日	18人	
10月6日	15人	○	10月20日	8人	
11月9日	16人	○			
12月7日	18人	○	12月21日	20人	
1月15日	16人	○			
2月5日	15人	○			
3月7日	18人	○	3月25日	20人	

21回実施し、延べ342人が参加した。

4 役員会等の開催

開催日	内 容
27.5.7	監事会 平成26年度決算関係監査
27.5.20	理事会・評議員会 議案第1号 平成26年度事業報告書 議案第2号 平成26年度収支決算書 議案第3号 平成26年度監査報告書
27.7.6	原爆追悼式開催要領打合わせ
27.9.7	原爆死没者追悼式反省会
27.12.7	理事会・評議員会 報告事項 ゆうちょ銀行振替口座から定期預金に預け替え 協議1 慰霊塔周辺の環境整備 協議2 研修会の実施
28.3.7	理事会 議案第1号 細則の一部改正について 協議1 理事、監事及び評議員候補者の選考 協議2 決算承認手続きについて 協議3 定額貯金の満期と資産運用 協議4 本会設立60周年記念行事
28.3.26	理事会・評議員会 議案第1号 平成28年度事業計画について 議案第2号 平成28年度収支予算について 議案第3号 理事、監事及び評議員候補者の選考について

5 福祉援護事業の実施

ア 平成27年8月6日原爆死没者追悼式において遺族等援護相談を実施した。
戦没者等の遺族に対する特別弔慰金（第10回特別弔慰金）の説明等を行った。
イ ともしび122号に県の旧軍人・軍属、遺族等援護相談会日程を掲

6 載した。

研修会の実施

日時 平成27年12月21日(月)
10時～11時

場所 西向寺門徒会館

内容 被爆体験伝承者の活動について

講師 辻 靖司（会員であり伝承者）

7 その他

(1) 慰霊塔の修繕及び周辺の環境整備

日時	工事名	工事内容
平成27.4.23	慰霊塔シーリング工事	慰霊塔の燈明部分の防水工事
平成27.11.28	慰霊塔説明文を収納するケースの改良	雨除けの蓋が自然に閉まるように改良
平成28.1.5	慰霊塔土間修理工事	参道通路のタイル張替・排水溝のコンクリート蓋5枚の取替え
平成28.3.3	慰霊塔花壇植栽工事	豆つげ15本植栽

(2) ユニセフへの募金

慰霊塔への賽銭（外国コイン）2.8kgを11月9日に広島県ユニセフ協会に持参した。

(3) 会員数

平成28.3.31 864人
平成27.3.31 912人

平成28年度事業計画書

1 広報活動の実施

(1) 原爆死没者追悼式を案内する。

平成28年8月6日開催の第60回原爆死没者追悼式の案内を、ともしび124号とともに会員に送付する。

(2) 会報「ともしび」を配布する。
平成28年6月30日付け第124号及び11月30日付け第125号の会報「ともしび」を印刷し、会員等に送付する。

(3) ホームページを運用する。

(4) 新たな慰霊塔説明文を印刷し、慰霊塔前に備え付ける。

(5) 冊子「動員学徒慟哭の証言」を関係者に贈呈する。

(6) 慰霊塔の清掃日時等を利用して、随時、参拝者に対して原爆空襲、動員学徒等の説明を行う。

2 第60回原爆死没者追悼式の開催
日時 平成28年8月6日(土)
午前9時から

3 場所 動員学徒慰霊塔前広場

全国戦没者追悼式への参加
日時 平成28年8月15日(月)

場所 日本武道館
参加者 未定

4 動員学徒慰霊塔の清掃・供花・英霊供養
別紙「行事予定表」（8P）のとおり

5 役員会等の開催

平成28年4月25日(月) 監事会
平成28年5月6日(金) 理事会
(平成27年度収支決算の承認、定時評議員会の開催)

平成28年5月23日(月) 定時評議員会・理事会
(平成27年度収支決算の承認、役員等の選任、理事長等選定)

平成29年3月24日(金) 臨時評議員会・理事会
(平成29年度収支予算の承認)

6 福祉援護事業の実施

(1) 遺族等援護相談の開催
(平成28年8月6日)

(2) 県の巡回相談日程の周知
(ともしび124号)

7 研修会の実施

会の設立60周年を記念して設立当初の経緯等について研修を行う。

ご寄付お礼

平成27年10月から平成28年4月までに、次の方から貴重なご寄付をいただきました。ご厚志、誠にありがとうございます。
久保 眞 三 様

ご寄付いただく際には、左記の口座へお振り込みください。

郵便局

振替口座

013001618858

一般財団法人

広島県動員学徒等犠牲者の会

平成28年度 収支予算書

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

(単位：円)

科目	当初予算A	前年度B	増減A-B
1 経営利益・経常費用			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息			
事業収益			
追悼式典事業収益	500,000	500,000	0
受取補助金等			
地方公共団体補助金	530,000	530,000	0
受取寄付金			
受取寄付金	50,000	50,000	0
雑収益			
受取利息	50,000	50,000	0
雑収益	700,000	700,000	0
経常収益計	1,830,000	1,830,000	0
(2) 経常費用			
事業費			
会議費	10,000	10,000	0
旅費交通費	320,000	320,000	0
通信運搬費	280,000	220,000	60,000
消耗品費	250,000	250,000	0
修繕費	1,000	350,000	△349,000
印刷製本費	460,000	350,000	110,000
光熱水費	40,000	40,000	0
保険料	30,000	30,000	0
委託費	500,000	420,000	80,000
賃借料	10,000	10,000	0
諸謝金	800,000	800,000	0
支払負担金	120,000	120,000	0
雑費	260,000	260,000	0
事業費計	3,081,000	3,180,000	△99,000
管理費			0
会議費	5,000	5,000	0
旅費交通費	200,000	200,000	0
通信運搬費	70,000	70,000	0
消耗品費	100,000	50,000	50,000
印刷製本費	40,000	40,000	0
賃借料	10,000	10,000	0
諸謝金	160,000	160,000	0
公租公課	25,000	25,000	0
支払負担金	300,000	400,000	△100,000
雑費	250,000	140,000	110,000
管理費計	1,160,000	1,100,000	60,000
経常費用計	4,241,000	4,280,000	△39,000
当期経常増減額	△2,411,000	△2,450,000	39,000
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0

平成27年度 収支決算書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

(単位：円)

科目	当年度	前年度	増減
1 経営利益・経常費用			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
事業収益			
追悼式典事業収益	529,000	367,000	162,000
受取補助金等			
地方公共団体補助金	561,000	539,000	22,000
受取寄付金			
受取寄付金	98,000	38,500	59,500
雑収益			
受取利息	50,663	48,995	1,668
雑収益	911,318	820,511	90,807
経常収益計	2,149,981	1,814,006	335,975
(2) 経常費用			
事業費			
会議費	6,961	5,954	1,007
旅費交通費	268,800	294,940	△26,140
通信運搬費	205,022	254,492	△49,470
消耗品費	223,492	208,810	14,682
修繕費	345,792	736,864	△391,072
印刷製本費	286,576	261,904	24,672
光熱水費	29,404	27,998	1,406
保険料	28,000	27,410	590
委託費	378,000	378,000	0
賃借料	5,832	0	5,832
諸謝金	800,000	1,024,000	△224,000
支払負担金	86,464	85,128	1,336
雑費	275,702	675,432	△399,730
事業費計	2,940,045	3,980,932	△1,040,887
管理費			
会議費	2,000	2,000	0
旅費交通費	150,000	150,000	0
通信運搬費	60,000	60,000	0
消耗品費	30,000	25,000	5,000
印刷製本費	4,000	35,000	△31,000
光熱水費	0	5,000	△5,000
賃借料	0	0	0
諸謝金	160,000	256,000	△96,000
公租公課	21,000	21,000	0
支払負担金	300,000	400,000	△100,000
雑費	140,000	155,000	△15,000
管理費計	867,000	1,109,000	△242,000
経常費用計	3,807,045	5,089,932	△1,282,887
当期経常増減額	△1,657,064	△3,275,926	1,618,862
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0

新たな慰霊塔説明文

慰霊塔について、B 6 判の表裏にそれぞれ日本語、英語で説明をしているリーフレットを塔の前に置いているが、平成27年度、新たな慰霊塔説明文（B 5 判、日本語、英語）を作成した。

動員学徒慰霊塔について

「動員学徒慰霊塔」は、広島県動員学徒等犠牲者の会が、全国で第二次世界大戦中犠牲となった1万人余の動員学徒等の霊を慰め、戦禍のない恒久平和の願いを込めて、地元広島文化勲章受章者の彫刻家圓鐔勝三氏に制作を依頼し、昭和42(1967)年7月に、原爆ドーム南側の緑地に建立したものです。

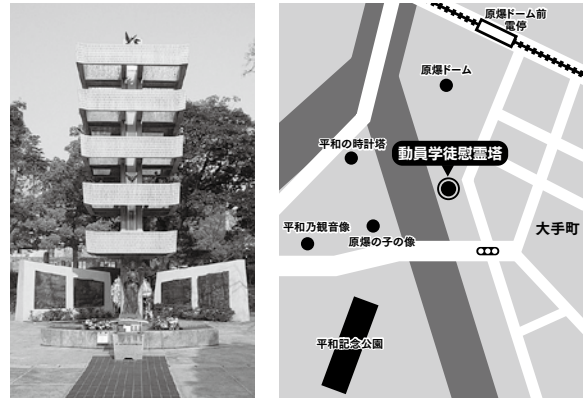
＜慰霊塔の詳細＞

塔の高さは12m。鉄筋コンクリート製で、有田焼陶板仕上げとなっており、平和の女神像と八羽の鳩を配置し、上空に向かって末広がりの五層の塔で、中心柱に慰霊の灯明が装置されています。

五重塔の中心柱の先端は折れた形になっています。これは、戦時中の労働力不足を補うため、12歳から16歳という若年で勤労動員させられ、戦火により犠牲となった学徒たちなどが、勉学半ばで犠牲になったこと、伸びんとするものが期せずして途中で挫折したことを表現しています。

平和の女神像は、多くの犠牲者の中には、色々な宗派の方がおられることを想定して、顔部分は観音様にして、頭部に王冠、背にはエンゼルの羽、手には蓮花ならぬ英霊の花を持ち、瑞々しい慈愛に満ちた姿に表現されています。

塔の背後左右には、高さ2mのレリーフ4枚を配置しています。レリーフの図柄は、「①食糧増産作業、②女子生徒の縫製作業、③工場内での鉄工作業、④灯ろう流し」です。そして、レリーフの裏側の銅板には、全国戦没学徒出身校の352校名が刻示されています。また、塔内の奉安庫には、広島で原爆投下の犠牲となった動員学徒など約7千名の霊位が安置されています。



動員学徒「慟哭の証言」が
電子ブックで読むことができます。

ホームページアドレス：
<http://www.douingakuto.com/>



一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会

事務局 〒732-0816 広島市南区比治山本町12番2号
TEL・FAX (082)252-0316

Memorial Tower for Mobilization Students

A "Memorial Tower for Mobilization Students" was erected on green grass on the southern side of land near the A-Bomb Dome in July, 1967, after a meeting of the Hiroshima mobilization student victims, in order to inspire the souls of more than 10,000 mobilization students over the entire country sacrificed in the Second World War. It was also to put up to propose a wish for no more damage through war and permanent peace around the world. They asked the sculptor, Mr. Katsuzoh Entsuba to design and make the tower. He was a local from Hiroshima, and later became the recipient of the "Order of Culture".

The Details of the Memorial Tower

The height of the memorial tower is 12 meters. It is made by reinforced concrete and is finished with ceramic boards made of special "Arita-ware". A goddess image of peace and eight doves are placed in it. It is a five level tower which spreads out like an open fan towards the sky, depicting increasing prosperity of the future. And a candle for the memorial service is attached to the leading pillar of the tower.

The tip of the pillar is made with a broken form. This expresses the following things; Under World War II, young students from 12 to 16 years old all over Japan were made to work as mobilized students because of the shortage of the labor force. Because of this the youths who would have grown up normally were sacrificed in the war in the middle of their studies, and died unexpectedly in the middle stage of their lives.

Assuming that there were many victims, people of various denominations, the face part of the goddess image of peace was made into the character of the Japanese Kannon, a crown was on her head and feathers of an angel were attached to her back. She had a flower of the soul instead of a lotus in one of her hands so she expresses the full figure of freshness and young affection.

Four symbols, 2 meters in height, of relief were placed on the rear right and left sides of the tower. The patterns of the relief represent ①the work of increasing food production, ②the sewing work by schoolgirls, ③the ironsmith work in the factory by schoolboys, and ④the scenery of floating of lanterns in the river.

352 names of those lost in battle, of student alma mater throughout the whole country are displayed on a copper sheet on the back of the relief. In addition to that, a mortuary tablet of approximately 7,000 mobilization students, who were sacrificed in the A-bomb being dropped above Hiroshima, is enshrined in a peaceful safe box in the tower.

<http://www.douingakuto.com/>

"Testimony of the lamentation"
written by mobilized students

You Can View a Digital Book. Click



被爆体験証言者 寺前妙子さん 伝承文(2)

被爆体験伝承者…辻 靖司

5 寺前さんからお聞きした被爆体験証言のお話、8項目のお話をします。

(1)最初に、「1945年8月6日広島市で何があったのか!」寺前さんからお聞きしたお話をします。



寺前さんは電話交換業務(啓発課準備の絵)に学徒動員された下中町(現在の袋町)の広島中央電話局で、廊下に整列していた時に被爆されました。何気なく空を見上げると、キラキラ光る物が落下していた。何だろうと思った後、ちょうどフラッ

シュを焚いたように「パッ」と光り輝き、辺りは白色の世界となった。その後、真つ暗闇となると同時に「ドーン!」と大きな音がして、ガラガラと建物の崩れる音があちこちから聞こえた。暗闇の中、何かの下敷きとなり、身動き出来なくなった。一瞬にして吹き飛ばされて、どこでどういうふうになったか分かりません。やっと気がついて外を見たら、外は火が赤々と燃えておりました。怖くなって早く出なければと思って階段の所に行くと、階段には沢山の動員学徒をはじめ電話局の人達が折り重なって倒れており、下りる事が出来ないで2階の窓から飛び下りて逃げたのです。市内には建物疎開で積んであった材木や色々な物が燃えており、炎がゴウゴウと音を立てて追っかけてくる恐ろしさに、どうなるかと思われたそうです。やっとの思いで1kmぐらい逃げた時に、電話局の先輩たちが追っかけて来て「どうしたん! ひどい怪我をして!」と声をかけられました。その人達の救急袋にあった

傷薬を塗ってもらって逃げている途中担任の先生が、友達から「中前(寺前さんの旧姓)さんがひどい怪我をしている。」と聞かされて助けに来られました。

やっと鶴見橋のたもとに着いた時、既に死んでいる人や、川向こうの比治山に向かって両手を挙げて叫んでいる人が沢山いました。その声は必死で「助けてくれ! 助けてくれ!」という必死の叫び声だったそうです。寺前さんは先生に早く逃げようと言われて、一緒に逃げて行きますが鶴見橋が燃えだしたので、危ないから泳いで逃げようという事になり、京橋川に飛び込みました。その時、だんだんと物が見えなくなっていく、どうしたのだろうか? おかしい? その時は自分では目や顔も大怪我をしている事は分からなかったで、物がはつきりと見えん、どうしたのだろうかと思つて、先生の腕にしがみついて泳いで逃げたのです。川の中ほどまで行くと、もう全然見えなくなつて意識も薄れていきます。「もう少しよ! 頑張つて!」と先生が必死に声をかけて下さったお陰で、とにかく京橋川を泳いで逃げる事が出来たのです。

いそうです。そして、重症患者として金輪島(爆心地から南東約7km)に送られました。私は一瞬にして失明された原爆被害の大きさに、ただただ、驚きながら、先生や先輩達の助け合う「大きな心の絆」で結ばれていた大きな感動を深く感じながら、お話をお聞きました。

(2)次に重症患者収容所・金輪島での闘病生活について、お話をします。

寺前さんが金輪島に着いてやっと落ち着いた時に、耳にしたのは、「お母さん!」「お母ちゃん!」という言葉でした。被爆後70年になりますが、寺前さんはあの時の惨状を見る事は出来なかったが、みんなの悲愴な最後の言葉は耳に残っているのです。原爆のために亡くなつて逝く人達が叫んでいた声を一人でも多くの人に伝えるのが、寺前さんは自分に課せられた務めではなからうかと。また、自分は生き残る事が出来た。生き残った一人として、あの時の声を一人でも多くの人に伝えなければと思つてお話をされているのです。金輪島での闘病生活の状態で、被爆後5日目の8月11日の朝、お父さんが金輪島へ探しに来られ、妹さんが8月7日に亡くなられた事を知りまし

た。寺前さんが「お母ちゃんのところへ早く連れて帰って！」と言ったら「金輪島ではすぐというわけにはいかない。船が出ないと帰れないので、船が出たら迎えに来る」と、いう事でお父さんは帰られました。



被爆後7日目の8月13日に、やっとお父さんが近所の人達と迎えに来てくれました。そして広島港（爆心地から4.7km）に着いて、そこに待たせてあった大八車に乗せられて帰って行くわけですが、乗せられた瞬間、ドスン！と傷の痛みが頭に響いて、その痛い事と言ったらありませんでした。「もうこの車には乗って帰らん」と言うと、お父さんが「この車に乗らないと

帰る事が出来ん」と言われ、我慢をして大八車に乗せられて、あの焼け跡の、ごたごたが沢山ある道を連れて帰ってもらったので、頭は割れるような痛さだったそうです。やっと帰った、家に帰れたという安心感とともに、弟たちが迎えに出てくれました。そして、弟たちは皆元気で良かったなと思った時に、弟たちが思いもかけない言葉を叫びました。第一声が「お姉ちゃんがお化けの顔になって帰ってきちゃった！」と大声で泣き出しました。寺前さんもびくびくして「お化けのような顔、どんな顔なん、お母ちゃん、教えて」と言いましたが、お父さんもお母さんも皆教えてくれませんでした。その晩からその言葉が頭に残って40度の熱が出るようになり、それは10月の終わりの頃まで熱と闘いながら過ごされたのです。友達みんなはどうしよってだろうか、先生はどうしよってだろうかと思っ過ぎていました。鶴見橋まで逃げられたのも、担任の先生がずっと「腕を離さないで！もう少しよ！もう少しよ！」と言いがら励まして川まで連れて逃げて下さって、川と一緒に泳いで逃げたその先生の消息が知りたい。ただ一言、「先生、あの時

はありがとうございました」と言いたい思いで一杯でしたが、先生に連絡が取れない。そのままずっと熱と闘いながら過ごされました。家では全部鏡を隠して、何も見る事が出来ないようにしてあったのです。弟さんが言った「お化けのような顔」の言葉が頭にこびりついて、一見したいと思っておられたのですが見せてもらえない状況だったのです。

10月の終わり頃、寺前さんもだいぶ元気になって、両親も安心して家を留守にしました。そうだ！今日はお父ちゃんもお母ちゃんもおらんから、怪我を見てもいいなと思って、鏡を必死で探しました。やっと鏡が出てきて、そして怪我をした自分の顔を見た時、私を連れて逃げて下さった先生を恨みました。左目が飛び出てなくなり握りこぶしが入るような大きな穴の怪我になって、そして鼻の上、右目周辺もひどくつぶれていました。先生も女性だったら、女性でこんなひどい姿をしとったら生きておられるか！先生はどうしてこんな私を助けて下さったのだろうか？私はある時、皆と一緒に京橋川に流されて行けばよかったのじゃないから先生を恨みました。先生に

会いたいという気持ちもあったけど、こういう姿をしている私を助けてもらったかと思うと「会いたいのと会いたくない！」の二通りの思いがあったのです。沢山の人が亡くなっていた中で助けてもらった。そのことは感謝しなくてはいいけません。しかし、当時大怪我をしており、放射線も至近距離で沢山浴びている、よく生きて2、3年だろう。と言われていたそうです。

私は、このお話をお聞きして、15歳の若い女学生が大切な顔の左目が飛び出て失明し、握りこぶしが入るような大きな穴の怪我になり、鼻の上、右目周辺もひどくつぶれている大怪我をされたのです。大きな精神的苦痛に耐え、原爆投下から70年もの長い人生を力強く生き抜いてこられた寺前さんに大きな尊敬の気持ちを持ちました。また「戦争のない平和の大切さ」をしつかり語り継ぐ伝承する責務を強く感じた時間でした。被爆体験のない私が、70年もの長い人生を力強く生き抜いてこられた寺前さんへどのようなねぎらいのお言葉をかければ良いのか、被爆証言をお聞きする私の心も痛み、とても悲しいつらい時間でした。

平成28年度 行事予定表

一般財団法人 広島県動員学徒等犠牲者の会

年	月	日	曜	清掃後読経	月	日	曜	清掃（行事がないときは解散）
平成28年	4	6	水		4	25	月	監事会（県社会福祉会館）
	5	6	金	理事会（西向寺門徒会館） （平成27年度収支決算の承認・定時評議員会の開催）	5	23	月	定時評議員会・理事会（西向寺門徒会館） （平成27年度収支決算の承認・役員の選任等）
	6	6	月		6	20	月	
	7	6	水	8月6日追悼式の打ち合わせ 会報「ともしび」封筒入れ（西向寺本堂）	7	20	水	
	8	5	金	供養会	8	22	月	
		6	土	第60回原爆死没者追悼式				
	9	5	月	追悼式反省会（西向寺本堂）	9	20	火	
	10	6	木		10	20	木	
	11	7	月		/	/	/	
平成29年	12	6	火	会報「ともしび」封筒入れ（西向寺本堂）	12	21	水	
	1	13	金		/	/	/	
	2	6	月		/	/	/	
	3	6	月		3	24	金	理事会・臨時評議員会（西向寺門徒会館） （平成29年度収支予算承認）

- (注)
- 1 慰霊塔付近の清掃は、午前9時30分からです。雨天の場合も実施します。
- 2 左欄は、慰霊塔付近の清掃日、清掃後「西向寺」で読経。
右欄は、行事がないときは清掃後解散。
なお、「西向寺」様の都合によって、日程変更する場合があります。



評議員、理事及び監事の改選

5月23日の定時評議員会において、一般財団法人広島県動員学徒等犠牲者の会の新たな役員等が選任され、理事会において理事長、副理事長が選定されました。

任期は、評議員は4年、理事、監事は2年となっています。

評議員
福場 隆子 茨木 和子 平野みさ子
中島 博之 早稲田良子 渡 美津子
寺田 博 久村 和夫 辻 靖司
日和 隼巳

理事
井上 公夫(理事長)
寺前 妙子(副理事長)
村中 和子 谷口 了子 中尾 俊男
松浦 輝紀 谷村美智子 本地 正治

監事
武田実智恵 徳田 由子

あ と が き

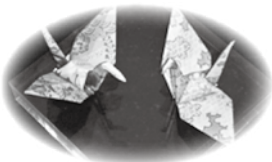
当会発足の経緯、設立時の宣言・決議等をご覧いただき、会員の皆様の中には、「そうだった、そうだった」と、発足当時を感慨深く思い出された方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

また、2世および同志の会員におかれましては、傷ついた学徒とそのご遺族の熱き願いと、多くの支援者の皆様方の尊い志に、改めて深く感銘されたのではないのでしょうか。

当会発足60年目の今年、当会発足の原点を改めて再認識することとは、私たちが、今後より一層意義ある活動を続けていく上で、良い起爆剤になったと思います。

本年5月27日は、「現職の米大統領の広島訪問」という歴史的な1日でしたが、くしくも平和公園のある広島市中区の気温が、この日市内一番の30.8度を記録したとか… 被災者の皆様方は、原爆投下のあの日を想起されたのではないのでしょうか。

(本地)



オバマ大統領から子どもたちに手渡された折り鶴